

# 大 おお 向 むかい



## 窪

川の街中から国道381号を十和・大正方面へ向かう。若井大橋を過ぎ、坂を登りきったところに、生姜加工販売会社があるが、そのすぐ手前に、左への矢印とともに「大向」と書かれたかわいらしい看板がある。その看板に従って左に入ると大向の集落が始まる。

大向は、大きく蛇行する四万十川に囲まれた、ほぼまん丸の地形の集落で、現在は28世帯70人が暮らしている。

江戸時代以前から、対岸の若井村の「出作地」として開拓されてきたようである。戦国期の地検帳にも、若井村の小村として記されている。古くから農業用水にはかなり難儀をした地区で、江戸後期の記録に「大向村難儀二付、作付米五石拝借仕候」とある。地区の周りをぐるりと四万十川が囲み、水は十分に見えるが、その昔は当然ながらポンプアップする技術はなく、小高い丘のようになっていた。この地区では、ずっと奥の支流から水を引いてくるしかなかったのである。農業用水には苦労したが、川漁には向いていた。なにしろ四万十川に囲まれているのである。おまけに、この辺りの水中の地形は鮎漁に適したところが多い。だから今でも川漁が盛んなのだという。地区には、家を建て



地区の方が撮り貯めた大向の写真



林の中にある「公園」

る大工さん兼舟大工という人もいたのだとか。また、水中の岩にもそれぞれ名前が付けられていて、漁のときの目印になっている。

さて、この地区で生まれ育ったという方で、若い時からずっと、地区の変遷をカメラに収めてきたという方がおられるのだが、この方が作られた「公園」がある。小さな林の中に手作りのベンチが幾つかあるだけの空間なのだが、誠に気持ちの良いところである。そこからは対岸の若井地区、若井沈下橋が一望できる。午前中は太陽が逆光になるが、午後3時くらいからは若井地区に行く汽車が太陽の光をいっぱいを受けて走る姿が、農村の景色と一体となり風情があるらしい。「公園」に設置しているテーブルには、それを見てもらえるようにちゃんと時刻表が貼ってある。

ところで、大向の産土神は、若井村と同じく春日神社で、若井村の春日神社からの分祀である。大向は若井村の枝村であったことを示している。

町のうごき		人口		前月比		出生		死亡		転入		転出		四万十川の 水質状況		適正值(mg/l)		3月12日	
男	8,125	-6	男	1	9	21	19	リン酸	≤ 1.0	測定範囲以下									
女	9,008	-22	女	2	18	12	18	硝酸	≤ 0.5	測定範囲以下									
計	17,133	-28	計	3	27	33	37	アンモニウム	≤ 5.0	0.106									
世帯数	8,498	-8					(2月中の届出)	アニオン活性剤	≤ 1.0	0.20									
窪川地域	12,121人	大正地域	2,392人	十和地域	2,620人							化学的酸素要求量	≤ 10.0	測定範囲以下					